

『無災害記録証』制度は、一定期間労働災害を発生させなかった事業場に対し、無災害であった延労働時間数に応じ、第1種から第5種までの無災害記録証を授与するものです。

この度、無災害記録証を授与された事業場は次のとおりです。

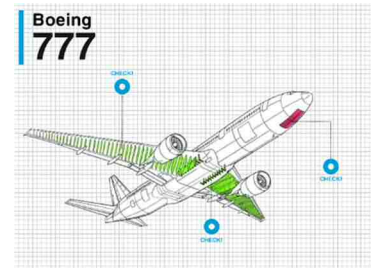
事業場名	日本飛行機株式会社 横浜工場
所在地	神奈川県横浜市金沢区昭和町3175
記録時間	710万時間（第2種）
樹立月日	令和5年5月8日



表彰を受ける池田光昭安全環境課長（左）

【事業概要】

日本飛行機株式会社横浜工場は、航空機部分品、標的システム、
クット部分品、宇宙機器の製造の生産を行っています。複合材部
品を軸に、胴体構造部、インパ―リフ（主翼内構造部品）などの設
計・製造を行い、B777、などの民間航空機や、エンジン部品など数
多くの国内外の機体生産の一翼を担っています。



【無災害に向けて、工夫した近年の取組】

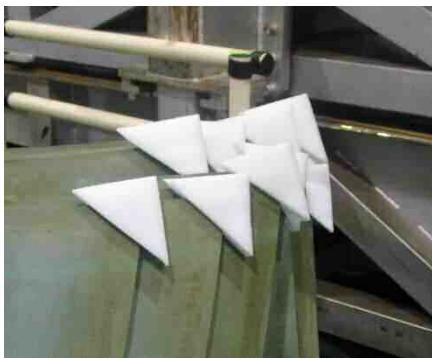
基本的な安全衛生活動に加えて、近年は下記を実施致しました。

①2022年4月より労働災害防止のため、構内全員ヘルメット着用、工場内では保護メガネ着用を義務化した。これにより、一部の作業場で発生していたクレーン作業時、フォークリフト作業時、高所作業などで布帽子とヘルメットを使い分ける煩雑さも解消した。

②2023年8月より不安全行動、不安全状態の改善のため、職場に事前通告を行わず、臨検としてパトロールを1回/月程度実施。当該職場に対しては指摘箇所をまとめて『この状態でよいですか?』と問いかけるかたちで是正を求めている。結果については、良く出来ている部分もあるが、不安全行動、不安全状態に対する指摘が散見される。

パトロールでは悪い点に対する指摘ばかりするのではなく、良い点も「好事例」として抽出し提示する様にしている。

【好事例 1： 鋭利な角部のエッジ にかががされている】



【好事例 2： キャスターロックを識別し、ロックがされている】



③2023年より無災害ポイントチャレンジ活動の展開

各部署毎のポイントチャレンジ活動として、楽しみながら安全意識高揚を目的とし、人数×日数で基礎点数を加点。リスクアセスメント、ヒヤリハット事例の提出件数などでポイント加算、災害、事故などで減点する活動を展開。各部署で競いながら安全に対する意識を高めている。

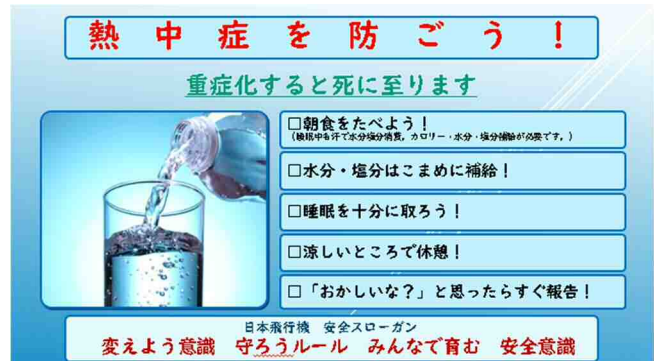
なお、事務系より危険に接するリスクの高い現業部門は、基礎点数の係数を高く設定している。

【無災害に向けて、工夫した近年の取組(つづき)】

④朝のPCポップ画面の表示

PCのスタートアップ時に、ポップアップ画面を表示しており、週2回を安全衛生にかかわる内容として表示させている。

社内で公募した「スローガン」、夏季は「熱中症」、時として「災害事例」、「保護具着用の啓蒙」などを数か月程度で更新して表示させ、注意啓蒙としている。



【ポップ例:熱中症】



⑤安全衛生部門幹部による講話を実施した。講話の内容は、安全について専門的というより、むしろ日常生活の中で起きる危険回避を基本とし、その延長線上に工場作業における危険回避があるとの違った視点の講話で、基本動作をリマインドした。

【安全衛生の講話の状況】

⑥管理者は関連の安全道場に順次参加し、安全意識を高めている。

⑦災害が増加する傾向を鑑み、総括安全衛生管理者の災害防止に向けての訓示を実施した。

【苦勞した点】

全体的に安全に対する意識が薄まっている様子が伺え、安全意識高揚に苦慮している。「安全第一」が陳腐化しないよう、法令や社則での決まり事が「なぜそうなっているのか」という理由を添えて、部下に伝えるよう管理監督者に促している。